



At the moment, the world is in a state of flux. The world is changing rapidly. The world is becoming more and more interconnected. The world is becoming more and more global. The world is becoming more and more diverse. The world is becoming more and more complex. The world is becoming more and more challenging. The world is becoming more and more exciting. The world is becoming more and more interesting. The world is becoming more and more beautiful. The world is becoming more and more wonderful. The world is becoming more and more amazing. The world is becoming more and more incredible. The world is becoming more and more extraordinary. The world is becoming more and more remarkable. The world is becoming more and more extraordinary. The world is becoming more and more remarkable. The world is becoming more and more extraordinary. The world is becoming more and more remarkable.

Pressures before pair joirat aparichangemy lifer abo

DOCUMENT

Transition to the digital state of contemporary general culture:  
- In terms of religion, you watch a western, you eat  
- today and local culture at night, you participate in the

### はじめに

2007年6月

情報社会学会会員の皆様

デジタル化の急速な進展による現代社会の変容は目を見張るものがある。本、新聞などアナログの象徴といえるものもデジタルで原稿を書き編集する事が当たり前であり、蓄積もデジタルである。写真もデジタルカメラで撮影し自由に印刷したり、メールに添付しネット上で自由にやりとりできる時代になり、デジタルの携帯で話をし、モバイルでメールしコンテンツを自由にやりとりすることが可能になった。映画の編集もデジタルで行うのが当たりまえになり制作コストを下げるとともに、家庭用のビデオ撮影機でハイビジョン撮影が可能になり、普通のパソコンでハイビジョンの編集が自由にできるようになって素人でもネットの上のサイトやパブリックアクセスTV等に自由に投稿・発表できるようになってきている。

一方で、世の中の情報量は近年ハードディスクの容量増や価格低下により1999年を1とすると2003年には13~15倍に増えたと言われ、その後も分野によってはデジタルでの情報量が6ヶ月で倍増している。DVDがビデオを駆逐し、音楽のネット配信がCD等の媒体から1曲単位の配信になりブロードバンドのネットワーク上では、DVD1枚分に相当するコンテンツのダウンロードも日常茶飯事で、外付けハードディスクは、1テラバイトが3万円台で購入でき机上に数テラの外付けディスクが転がっている。しかし、それらの利用では、なつかしいパーキンソンの法則に従っていつの間にかいっぱいになり、ノートパソコンのHDも新製品に買い換えるたびにいっぱいになる。ところが、残念ながらデジタルでの長期保存に関しては、現状ではかなり難しい問題をいくつか抱えており抜本的な解決策の研究が待たれる。デジタル・コンテンツ自身は、人間が認知できる物ではなく何らかの書式を付与して初めて認知できる形になる。ワンソース・マルチユースの所以である。1980年代の半ばに、SGMLが出てきたときはこれで解決したと思ったことが、利用の大衆化や技術の急速な進展とくにネットワーク(Webも含めて)やモバイルの進展により長期保存に関する次のパラダイムを必要としている。色々な提案がなされているが解決策といえるものはまだ無いと考えて良い。情報社会が、単なる技術の進歩だけでなく真の意味で社会のパラダイムの変換となるための学を情報社会学会で確立したいと思う。

本号には、「情報社会学と社会システム」のテーマでまとめた論文が掲載されています。投稿された論文は、情報社会の学を作るのにふさわしい萌芽性、オリジナル性があるユニークな論文が第3号に掲載されることになりました。中には、継続した研究により次の論文に期待すると言ったような暖かい(?) 審査のコメントもありました。

第3号の学会誌の発行に際しましてご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

情報社会学会 副会長 大橋正和 (中央大学)